

系統豚清浄化維持試験

大石仁, 谷田部隆¹, 安田正勝²

Cleanliness and Maintenance of Pig Strain[ROSE W-2]

Hitoshi OISHI, Takashi YATABE, Masakatsu YASUDA

要 約

「ローズW-1」の後継系統として平成15年3月に造成が完了し、同年7月に認定された大ヨークシャー種系統豚「ローズW-2」を清浄状態で維持し、繁殖成績、育成成績、産肉成績、育成豚の主要形質の成績、維持集団の遺伝的構成及び衛生状態等を調査した。その結果、哺育開始頭数は若干低下したが、育成率は良好であった。集団の遺伝的構成は、平均血縁係数、平均近交係数は大きな変動は見られなかったが系統認定豚の約半数を茨城県系統豚供給センターへ移管したため遺伝的寄与率変動係数はやや高値を示した。

キーワード：系統豚，大ヨークシャー，維持

緒 言

茨城県の銘柄豚肉である「ローズポーク」は斉一性に富む高品質豚肉であることに加え、生産履歴の明確な点で安全・安心な豚肉としても好評を得ている。

当所では、この「ローズポーク」をはじめとする高品質豚肉の基礎豚として系統豚を造成・維持してきた。昭和62年に認定された大ヨークシャー種系統豚「ローズW-1」は平成14～15年頃には維持の限界に達するため、平成8年から大ヨークシャー種系統豚「ローズW-1」の後継系統の造成を開始し、平成15年3月に完了、同年7月の系統豚「ローズW-2」として認定され維持へと移行した。

材料及び方法

本年度は維持開始年度であるため7月～9月にかけて集中分娩させデータ収集を実施した。調査内容を以下に示す。

1. 維持状況
2. 育成豚払い下げ実施状況

3. 子豚頭数
4. 週齢別平均体重
5. 育成豚の主要形質成績（産肉成績及び体尺測定値）
6. 集団の遺伝的構成
7. 衛生検査

- 1) オーエスキー病：ADV (gI) エリーザキット (インターベット社)
- 2) PRRS：PRRSエリーザキット(インターベット社)
- 3) トキソプラズマ病：トキソチェックMT(栄研)

結 果

1. 維持状況
平成15年10月系統認定豚雄5頭、雌30頭を茨城県系統豚供給センターへ移管した。
平成16年3月31日現在、当所維持施設内で飼養している種豚は、雄9頭、雌34頭であった。
2. 育成豚払い下げ実施状況
試験除外豚として養豚農家12戸48頭（雄16頭、雌32頭）の払い下げを実施した。
3. 子豚頭数（表1）
哺育成績：分娩子数は良好であったが、哺育開始頭数が若干少なかった。
育成成績：育成率は良好であった。
4. 週齢別平均体重（表2）

1 現 茨城県農業総合センター麻生地域農業改良普及センター

2 現 茨城県農業総合センター農業大学校

各週齢とも標準的体重であった。

5. 育成豚の主要形質成績

(1) 産肉成績 (表3)

- DG: 前年度より低い結果であった。
- BF: 雄については良好であったが、雌はやや薄い結果であった。
- EM: 雌雄共に良好な結果であった。

(2) 体尺測定値 (表4)

雄については前年度と比較すると胸囲がやや低値であったが、全体では同様の傾向を示した。雌については前年度と同様の傾向であった。

6. 集団の遺伝的構成 (図1, 図2)

平均血縁係数, 平均近交係数ともに大きな変動はなかった。遺伝的寄与率変動係数は約半数を系統豚供給センターに移管したため急上昇した。

7. 衛生検査結果

- 1) オーエスキー病: 全て陰性
- 2) PRRS: 全て陰性
- 3) トキソプラズマ病: 全て陰性

考 察

哺育成績について, 1腹平均分娩子数は9.73頭であったが哺育開始頭数が8.02頭と少なかった。理由としては, 虚弱子豚の分娩が多いことによる虚弱死及び虚弱による淘汰が多かった(死亡子豚の41.1%を占める)ことが要因である。また, 育成率が良かった理由としては虚弱子豚の早期淘汰が一因と思われる。育成豚の主要形質の成績は概ね前年度(造成最終世代)と同様であった。

集団の遺伝構成では近交係数, 血縁係数共に大きな変動はなかったものの遺伝的寄与率変動係数については, 維持開始年度にしては若干高い値が出ているので, 今後は交配及び選抜を慎重に行った上で, 種豚をなるべく長く使用できるよう飼養管理にも配慮する必要がある。

表1 子豚頭数 単位: 頭, %

	分娩子数	哺育開始	1週齢	3週齢	5週齢
1腹平均	524	433	425	415	406
子豚数	9.70	8.02	7.78	7.69	7.52
育成率	-	100	98.2	95.8	93.8

表2 平均子豚体重 単位: kg

哺育開始	1週齢	3週齢	5週齢
1.25	2.26	5.22	9.69
±0.27	±0.56	±1.06	±1.77

表3 産肉成績 単位: kg, cm, cm²

	n	DG	BF	EM
雄	40	802	1.32	41.29
雌	17	697	1.14	42.34

n: 調査頭数

DG: 体重30kg~105kgまでの1日平均増体重

BF: 背脂肪厚

EM: ロース断面積

表4 体尺測定値 単位: cm

	年度	体長	胸囲	体高	背高	胸深
♂	14	107.1	108.0	65.0	69.0	35.2
	15	107.3	100.8	65.6	69.6	35.8
♀	14	107.5	108.5	64.5	68.0	35.2
	15	112.5	109.7	66.3	69.0	36.6

	年度	前幅	胸幅	後幅	前管囲	後管囲
♂	14	34.4	30.7	33.2	19.2	19.4
	15	34.1	31.0	34.1	18.8	19.4
♀	14	33.8	30.3	33.3	18.5	18.3
	15	34.9	31.4	34.8	18.0	18.6

※体重105kg時点で測定

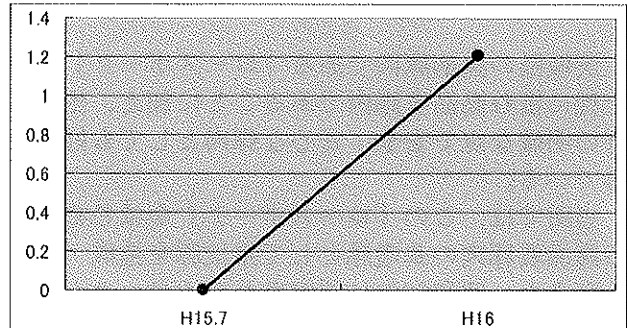


図1 遺伝的寄与率変動係数の変化

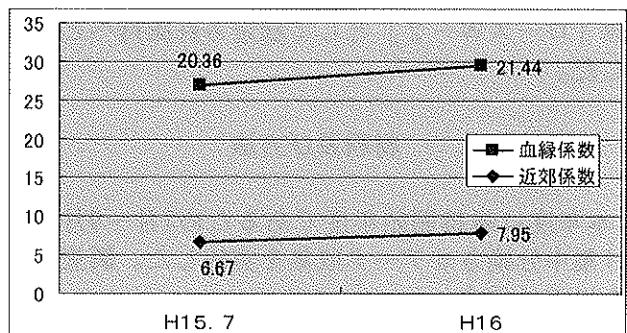


図2 平均血縁係数と平均近交係数の変化